

3月8日 国際女性デー リーダーシップを発揮する女性たち：コロナ禍の世界で平等な未来を実現する

2021年の国際女性デーのテーマは、「リーダーシップを発揮する女性たち：コロナ禍の世界で平等な未来を実現する」です。このテーマに合わせるかのように、アフガニスタンからうれしいニュースが届きました。

当財団は、2011年から2016年まで、アフガニスタンの山岳地帯にあるパルワン州とカピサ州で「遠隔農村地域におけるコミュニティ運営による初等教育事業」を実施しました。この事業では、小学校が遠く通学できなかった子どもたちを対象に、地域の人々が運営する学習教室を設置し、子どもたち、特に女子たちに初等教育を受ける機会を提供しました。事業終了からおよそ5年、その成果として、アフガニスタン事務所から、以下3つが報告されました。

2014年当時小学校に通う女子たち▶



成果1： 事業の第1期(2011年～2014年)の2,015名の小学生の56パーセントにあたる1,141名が中学・高校に進学しました。

成果2： 中学・高校に進学した生徒のうち、女子が45パーセントを占めました。
(アフガニスタン全土で女子の中学・高校就学率は37パーセントであることに加え、パルワン州とカピサ州は山岳地帯であることを考慮すると、これはとてもいい数字となります。)

成果3： 学校に通う女子が増えた結果、早期婚の件数が減少しました。

また、よい成果を日本の支援者の皆さまにお伝えしたいという一心で、先生方はとても熱心に生徒たちを指導し、生徒たちの成績もよかったとのこと。日本からのご支援による、良い変化は今も続いており、村の人々もとても感謝しているとのこと。改めて、皆さまのご支援に感謝を申し上げます。

そして、当財団は、これらかも、世界中の女性たちがリーダーシップを発揮し、平等な未来を実現できるよう支援活動を行ってまいります。

編集後記



●2020年3月から、スタッフ、インターンは基本的に在宅勤務推奨となり、私は週1回程度出勤しています。今年1月7日に緊急事態宣言が出されたことをうけ、事務局でのボランティアさんの受け入れを、再度一時中止することになりました。「来週、ボランティア行きますよ」というご連絡をお断りせざるを得ず、心苦しい日々が続きます。しばらくお会いできないですが、その分、次にボランティアの皆さまとお話できる日を、心待ちにしています。(脇坂)

●東日本大震災の発災から、10年の節目を迎えようとしています。この10年で、被災地の復興は着実に進展していますが、心のケア等の被災者支援などの課題も残されています。私たちの支援は2013年3月に終了していますが、今号でご紹介させていただいたアフガニスタンの事例のように、何年経っても支援活動を通じて出会ったお一人おひとりを忘れないで、心を寄せていきたいと思っています。(甲斐)

個人支援者専用ダイヤル TEL:03-5499-9931

CARE アクションする



公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン

〒171-0031 東京都豊島区目白2-2-1 目白カルチャービル5階
TEL:03-5950-1335 FAX:03-5950-1375
E-mail:info@careintjp.org Website:www.careintjp.org
Facebook:www.facebook.com/CAREJp Twitter:https://twitter.com/CAREJp

※小誌へのご意見、ご感想を募集しています。
発行元までお寄せ下さい。

※このニュースレターのデザイン・レイアウトは、CAREの
デザインボランティアの会田ひとみ様のご協力により、制作されています。



CARE World

Vol. **40** ケア・インターナショナル ジャパン
Newsletter February 2021

3月8日 国際女性デー
10周年となる歩く国際協力
「Walk in Her Shoes」
キャンペーン始まる



世界には、水汲みのために毎日歩かなければならない女性や女の子たちがたくさんいます。そんな「彼女たちの身になって歩く」シンプルで健康的な国際協力キャンペーン「Walk in Her Shoes」は、CAREオーストラリアで始まりました。現在は、日本を含め5か国で実施されているグローバルなキャンペーンです。

そして、日本での開催は、今年で10周年の節目を迎えます。日本各地また海外からのご参加を含め、これまで総勢3,700名様を超える皆さまにご参加いただいています。

10周年特別企画

—歩数に応じた寄付の拡充や
オンラインイベント開催—

10周年となる今年のキャンペーンは、より多くの方々に楽しくご参加いただき、支援の輪をさらに広げていけるよう、様々な特別企画をご用意しています。

例えば、これまで、キャンペーンに参加し歩数をご報告いただくと「500歩につき1円」が特別協賛企業から寄付されていましたが、今年は「100歩につき1円」に、寄付が拡充されます。また、昨年はコロナ禍によりイベントは開催できませんでしたが、今年は、オンラインという形をとりながら、ワンコインでご参加いただけるバーチャルウォークイベントや九州限定企画など、本キャンペーンをさらに盛り上げる場をたくさん作っていきたくと思っています。



ケア・インターナショナル
ジャパンは、世界100ヶ国
以上で人道支援活動を行う
国際NGOケア・インター
ナショナルの一員です。
災害時の緊急・復興支援
や「女性と女子」の自立
支援を通して、貧困のない
社会を目指しています。

Contents

page 1	歩く国際協力「Walk in Her Shoes」 10周年
page 2	東ティモール「農業用水改善事業」
page 3	最新レポート
page 4	国際女性デー2021: アフガニスタンからのレポート



▲自主企画イベントでCAREの「C」のポーズをとるジュニア・アンバサダー*たち
(2020年5月宮崎県にて)

つながる場として

—企業参加の促進、学生との
新たな連携も—

大変うれしいことに、今回のキャンペーンに、既に多くのご賛同をいただいています。

例えば、企業様には、特別協賛などのご支援の他に、「ウォーキング・パートナー」として10社の企業様から社員参加促進を通じたご参加をいただく予定です。国際貢献の機会であることに加えて、リモートワーク環境下での社員の健康増進やチームビルディングのため施策の1つとしてもご賛同いただいています。さらに、今年から、学生主体の国際協力団体との連携も始めます。大学生たちは、今、コロナ禍により、対面授業だけではなく国内外でのボランティア活動も制限されています。そのような中、一堂に会さずとも国際協力を学び実践できる場として、「学生パートナー」として9の学生団体が参加し、CAREとともにキャンペーンを盛り上げていただきます。

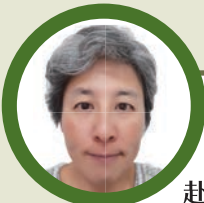
未だ、コロナ禍ではありますが、そんな今だからこそ、オンライン上でつながることができ、気軽に取り組める国際協力として、ぜひ多くの皆さまにご参加いただければと思います。国際女性デーから3か月間、皆さまと「彼女たちの身になって歩く」ことを、キャンペーン担当として、とても楽しみにしています。
(マーケティング部 神 裕子)

*ジュニア・アンバサダーとは、ガールスカウトに所属する女子高校生たち。
主にキャンペーンの広報を担う。2021年度は14都府県より40名が活動予定。

活動地域	エルメラ県アッサベ郡の4村落(12の農民グループ)
実施期間	2020年3月～2023年10月(3年8か月) ※うち、3月31日～10月31日の約7か月間は新型コロナウイルス感染拡大に伴い活動休止
年間事業規模	およそ40,000千円
活動内容	貯水タンクや点滴灌漑設備などの設置、水管理委員会の設置、ジェンダー平等研修の実施



まずは、自己紹介をお願いします。



渋谷優子です。

これまで20年ほど南アジアの開発事業に携わってきました。赴任地は、1年間インドのデリーにいた以外は、ネパールのポカラ近郊の村とカトマンズでした。主にコミュニティー開発のアプローチで、緑化対策、教育、女性開発、農業普及、養蚕振興、土壌保全、地方行政官研修などの分野で活動をしてきました。今回は、コロナに翻弄され、東ティモールにたどり着き、20年前に協力隊として従事していたプロジェクトに非常に似た事業に携わっています。



東ティモールの印象や人々の暮らしを教えてください。

東ティモールには、タイ、ベトナム、ラオスなどの東南アジアの国々のようなイメージを抱いて

来ましたが、それらの国々よりかなり開発は遅れており、長年暮らしたカトマンズよりも貧しい印象です。夜に灯される電灯の明かりがとても暗いです。人々が着ている服も質素なものが多く、タクシーも使い古され、家とはたん屋根で、経済レベルはかなり低いです。また、衣類は古着市場で調達するしかありません。首都デリーに住む外国人も1～5ドルで古着を買って間に合わせています。でも、人々はおおらかで優しいです。バケツをひっくり返したような土砂降りの雨が降ると、子どもたちは、裸足で道に出てサッカーを始めます。余暇の楽しみ方として、カラオケが人気で、様々な式典でもカラオケが時には朝方まで行われます。



ある1日の仕事内容

1日のスケジュールを教えてください

6:00	起床、我流の体操
8:30	出勤、メールのチェック
9:00	プロジェクトのスタッフの面接
11:00	プロジェクトのスタッフとの打ち合わせ
12:00	昼食
13:00	プロジェクトのスタッフが現地入りするために必要な資材や手当の準備
14:00	ジェンダー・チームとモニタリング計画の作成についてオリエンテーションを受ける
16:00	予算の見直し、ワークショップの準備
17:45	帰宅
18:00	夕食
20:00	カトマンズに住む娘とオンラインの日本語学習
23:00	就寝

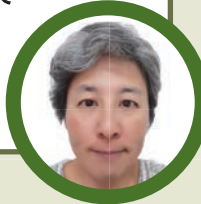


スタッフと打ち合わせする渋谷(右)

やりがいを感じることを教えてください。

東ティモールは貧困の度合いが高い分、ジェンダー平等の実現が遅れており、予想以上に女性や子どもが暴力や性虐待の危険にさらされています。そのため、プロジェクトには、農民グループのメンバーの半分以上を必ず女性にするルールやジェンダー平等の研修を男女別で実施したり、女性や弱者への配慮を啓発するビデオを視聴したり、女性がグループの会合で発言したりできるような環境作りをするなど、様々な工夫が盛り込まれています。

また、CAREでは、どの職種の職員の面接でも、女性に対するハラスメントや子どもへの虐待に関する質問が盛り込まれています。採用された職員にはジェンダーや弱者への配慮、子どもへの虐待防止などに関する研修を受講することが義務付けられています。このように、多くの人にこれらの問題に触れる機会を戦略的に作ることによって人々に問題意識を持ってもらい、様々なレベルで様々な働きかけが活発になされています。これは、今回初めて関わる国際NGOの現場から学んだことの一つです。すべてのプロジェクトがこれらの課題の啓発を活動に盛り込むことや、どのように目標を達成していくかを専門的に支援するジェンダー・チームも存在し、そのような仲間と一緒に働くことにとってもやりがいを感じています。



ジェンダー研修に参加した東ティモール事務所全スタッフ



プロジェクト・スタッフとプロジェクトのために調達した車とバイク2台

支援者の皆さまへのメッセージをお願いします。

2020年10月末に赴任しましたが、2週間の隔離や現地スタッフの雇用が難航したことにより活動開始が少し遅れ気味です。ここ途上国ならではの人為的ミスやのんびりモードの仕事ぶりにイライラさせられながらも、少しずつ前進しています。2020年末に最後の面接を終え、必要なスタッフがほぼ決まりほっとしています。最後に決まった2名は、2月から勤務を開始しています。

2月8日現在、東ティモール国内の新型コロナウイルス累計感染者数は70人を越えています。一方、年末に出された10人以上の集会禁止は1月中旬に解除され、同月下旬から予定していた活動を徐行運転で行っています。農民グループの会合ではマスクを配り、密にならないように座るなどの対策をとっています。これから、徐々に現場の様子や活動の進展をご報告していきますので、ぜひ皆さまのご支援をお願いいたします。



2021年1月に訪れた農民グループのメンバーたち